

編集後記

2016 年 12 月号（第 33 巻 2 号）をお届けいたします。第 1 号の巻頭言で、「発行の遅延を徐々に縮めてゆきたい」と申し上げましたが、今回も約 3 か月の遅れになりました。第 2 号のお届けの際には、翌年度の会費納入に関する書類も同封されますので、年度末の経理処理の面でもご不便をおかけしましたことをお詫びいたします。

今回は、巻頭言は鈴木保任先生に、指標は黒木祥文様に、ミニレビューは床波志保先生のグループに、FIA フロントラインは石松亮一先生に、トピックスは渡部裕貴君に、それぞれご執筆いただきました。また、海外からは Christian 先生、Uraisin 先生、Charoenkitamorn さんから、国内からは塚越一彦先生、石松亮一先生、大野慎介様、大塚裕太君、一杉理香さんから、計 8 報の報告記事をいただきました。新刊紹介は、私の関係で恐縮ですが、2 点紹介させていただきました。学会情報は竹内政樹先生にお願いしました。また、Bulatov 先生からは 21st ICFIA のお知らせをいただきました。JAFIA 各賞の受賞者紹介につきましては、6 件のうち R.B.R. de Mesquita 先生の記事が間に合いませんでした。次号（第 34 巻 1 号）でご紹介できればと存じます。

本号も、皆様のお力添えのお陰で、JAFIA の機関誌としてはそれなりの体裁を保つことができたかと思えます。しかし、FIA をはじめ流れ分析に焦点を当てた国際学術誌としては、原著論文が集まらず、無念に思います。編集委員長として責任を感じています。せめて私の研究室からでも 1 報をとおり、大学院生に素稿を書いていただいたのですが、学内・学部内の雑務に追われ、投稿レベルにまで完成度を高める余裕が私になく、今回は断念するに至りました。

インパクトファクター (IF) 重視の時流の中で、IF が付与されていない本誌は、苦しい状況にあります。本誌の価値を上げるため、J-STAGE 登載をめざし、2016 年春・秋の編集委員会での審議を経て、JAFIA 事務局（石松先生）より国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) に J-STAGE サービス利用申込書を提出していただきました。また、申込みのために必要な査読規定を、JFIA 編集委員会で審議し制定いたしました。2017 年 2 月 7 日に、JST から「貴誌『Journal of Flow Injection Analysis』の J-STAGE サービス利用申込書にもとづき、J-STAGE 登載についての審査を行いました。この結果、登載誌として採択されましたことをご連絡申し上げます。」とのお知らせが事務局に届きました。登載は平成 30 年度以降になるとのことです。J-STAGE に登載されれば、各記事にはデジタルオブジェクト識別子 (DOI) が付され、Google などの検索エンジンや Scopus などの学術情報サービスからも検索可能ですので、JFIA の価値、JFIA に原著論文を公表することの意義が高まると期待します。

長岡 勉 先生から編集委員長を引き継いで、1 年近くが経ちました。これまで、私の不慣れから、次号以降の執筆者を編集委員会時に侃々諤々と協議しておりました。今後は、バックナンバーの各記事についてデータベースを作成し、依頼するのが抜けている先生はいないか、充実しなければならない内容はないか、俯瞰的に見渡し、構想を練った上で編集委員会に臨むとともに、編集委員会前から早め早めに手を打ってゆきたいと思えます。次巻（第 34 巻）からは、新たな編集委員会の構成で JFIA の編集にあたります。JAFIA 会員の皆様には、JFIA 発展のために、奮ってご寄稿くださいますようお願い申し上げます。

JFIA 編集委員長 田中秀治